

1. 研究課題名：

温室効果ガスおよび短寿命気候因子(SLCP)緩和策
が引き起こす環境影響の能動的評価



2. 研究代表者氏名および所属：

中島 映至（東京大学 大気海洋研究所）

3. 研究実施期間：平成 25 年度

4. 研究の趣旨・概要

短寿命気候因子（エアロゾル、オゾンなど）は気候変動や大気汚染改善の観点から削減は必須である。一方で、削減による気候影響は複雑であり、十分に検討されていない。そのため、排出量モデル、社会経済モデル、化学輸送モデル、気候変動モデルを最大限に活かして多様な削減策（緩和策）の中から最適な経路を選ぶ必要がある。

本研究では、短寿命気候因子の削減に関して、上記モデルを組み合わせた能動的な評価手法の開発、最適な削減経路の提示、温暖化抑制策策定のための科学的基盤を提供する方法について、その実現可能性を検証する。

短寿命、長寿命の両気候変動因子を考慮した気候変動緩和策について実施可能な政策の策定に貢献する。

5. 研究項目及び実施体制

- ①領域における排出変動の推計に関する研究（国立環境研究所）
- ②将来の発展と排出シナリオの定量化に関する研究（国立環境研究所）
- ③全球影響評価に関する研究（東京大学）

6. 研究のイメージ

